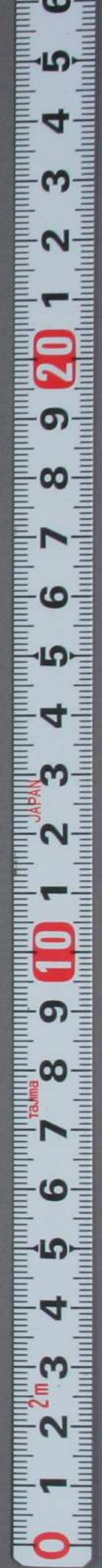




茶道叢書
廿八

ヲ多
694
X/18



門 7 9
義
卷

花 彦 彦 柳
小入法 毛亮 炭 八德

有我



ひき野之事

- 一 大谷を概ふ時なく炸り四方に二分程の塊
- 一 かつき取添う能杖に導りあはれとのや
- 一 原叟に別々しく花檀、ゆき草をくくゆき草有
- 一 之ゆき草はゆき草とゆき草と通るはゆき草と概ふ時疎
- 一 大さ成るくく概り不中ひ併ふやうくゆき草は前
- 一 向道ハ布の金ととをふをその間ニ合意ハの時
- 一 ありくく炸めあんと打ちくくそを金とゆき草と成

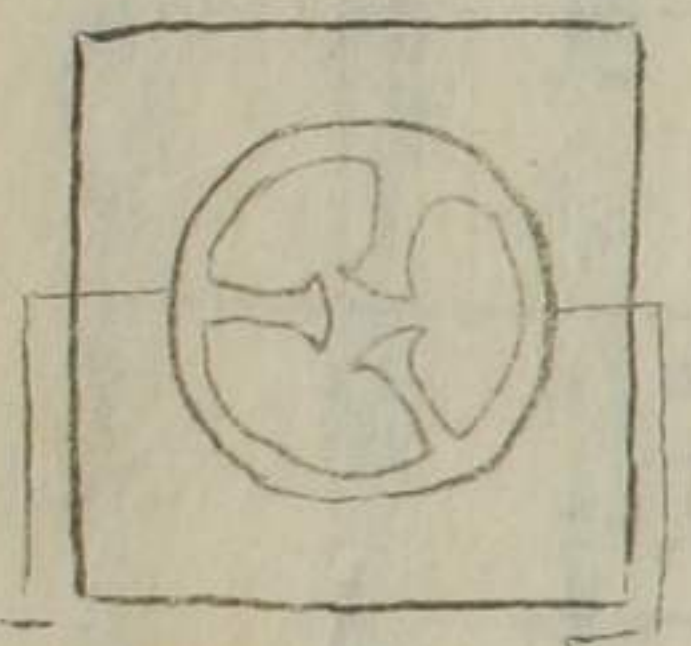
一 け時三枚押意に入タル由
 一 妙森庵ノ炉ハ脇に切ふゆふヤハリ清遠御
 一 炉ハ珠をくまふまの
 一 炸ノ神リハ口をまいたくも前をさやふ良松
 一 ぬはまゆ之はち六村御校ノ事申す右通と
 一 及
 一 及

炸入校ノ事

一 此徳丸ノ事申す内氣能丸ヲワルル事
 一 入校はワルル事申す又ハぬりヲ受テ

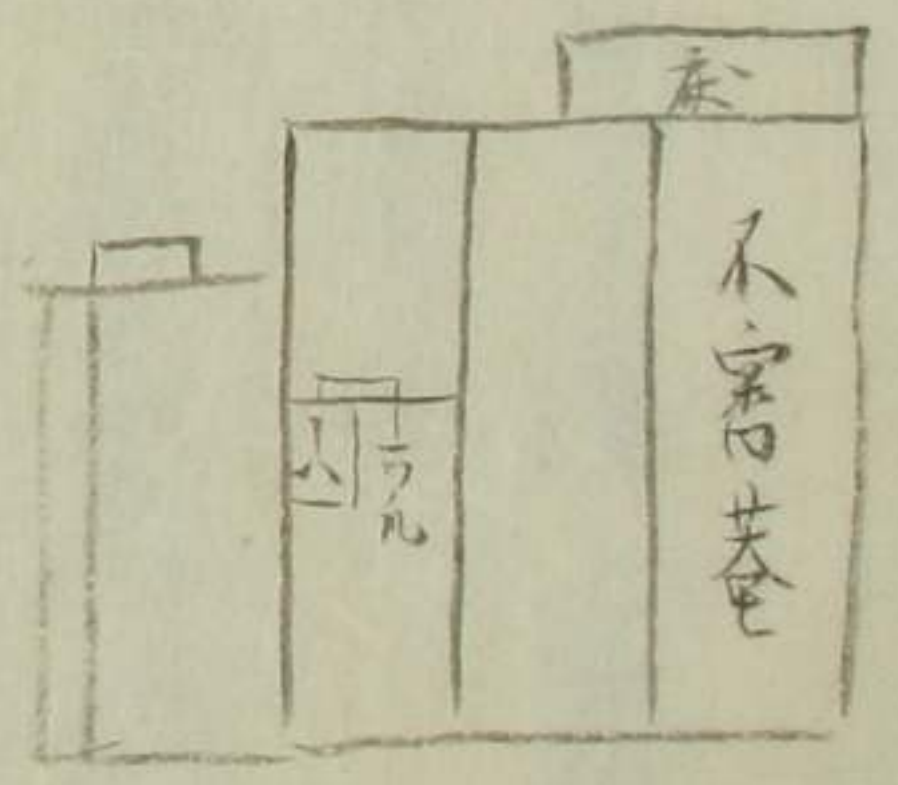
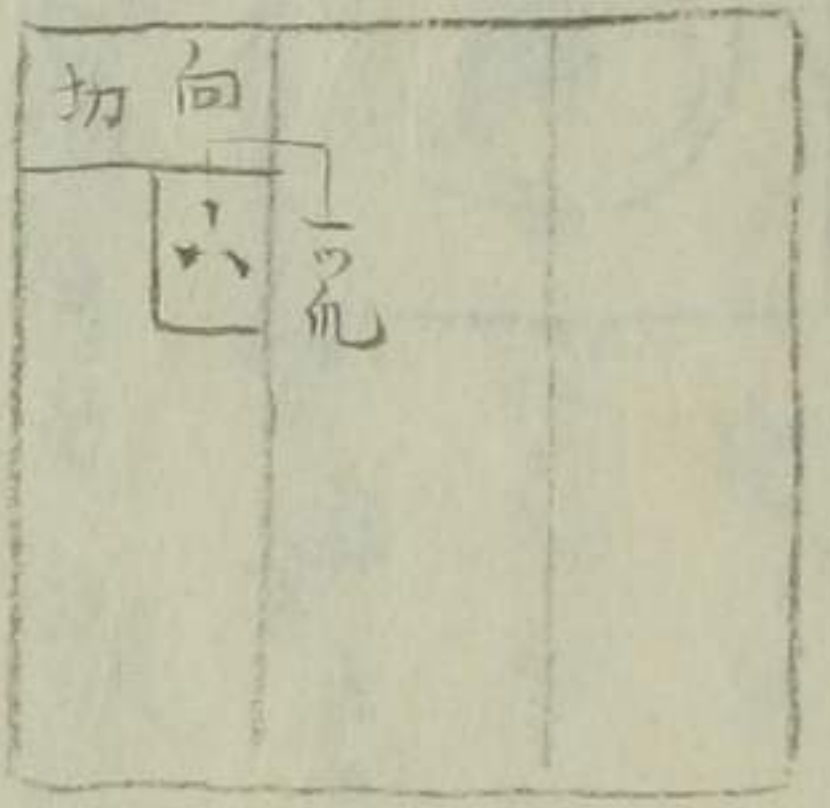
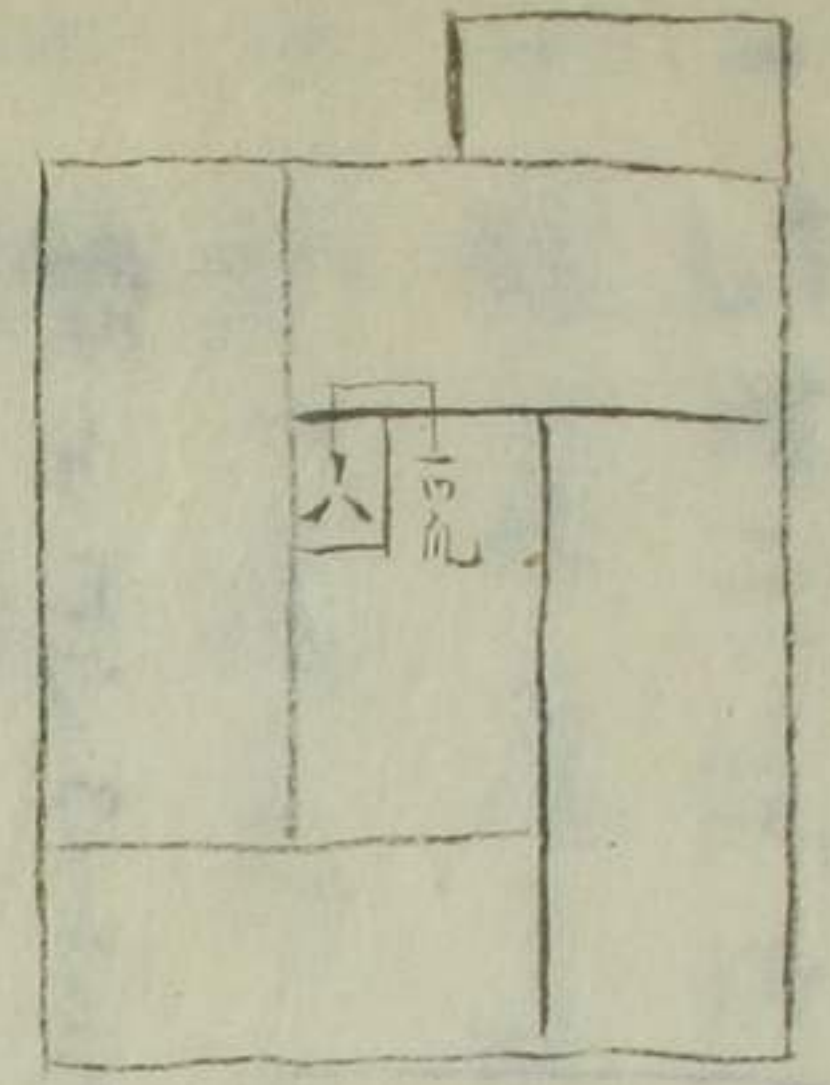


一 店系支をりり店殺ヨリ見合者
 一 一ツ丸向う事申す一足ハ極テぬはまゆハ
 一 七八ハ流下ケテ店ノ口ハ七八ハ程と上ケテ店
 一 是と才法定リタルニアラス柄枚ノ柄
 一 復之焼とと心切て有之板丸ニ
 一 炸とヒツワケテ居るものや



ワル

一 焼方ぬは好ハ



好天仕振

一 大冬ノ時ハ角ヲ小サク切り小冬ノ時ハ角ヲ大キク切りヤ
 一 次ハシヘモナリ故ハ冬ニシタ
 一 大湯ノ多キトテ一皮ノカニモ見度ニカキ上テテ湯ノ方
 一 皮上湯ノ皮ノ方

サシヲ横ニ切テ直ニ又修リ長クツクハ中
 程ヲ横ヲロシテ直ヤハ

小直長丸

好風トモニ雲籠ノ冬ニ渡リタルものヤ

風好小直長丸

冬ノ切邊ノ新コテ風好ノ角々ニシテ上ルカ下ルカニ
 恰好ニヨリ見合居ルニ茶ノ方ハ向ヨリニシテ下テめ
 居ルニ是モ修リ目ニ立程ハ女ノ
 一 小直ハ風好ノ内ヤクサニ茶ノ方ニ居ル

風炉之灰

一 足着フクオ灰之指フルイニテ能フルイ又ヤケニニテ能向クハ

風炉灰之仕灰

一 風炉上ケタル時ハ灰ヤハラカニホワコリトスルニ碓着少至リクハ一灰モサワハリト涼シク見ユル故ニスル事ノ前ニ文字右ノ方短クたノ方如ケ角遠ニ切ル向ハ右ヲ切リたハ前ノ灰ト漬ケ中ノ右と長クた切リ

一 前ニ文字ノ風炉ノ灰ノ物ノ合セメ灰淡ス事アリ是ハ仙叟ノ灰ノ如ク有ル

一 雲龍全ク一灰者常ニぬくく白風炉如ク有ルハ法ノ端と大方同ニシテ丸クスルニむた右切リ

一 けそ龍向クハ丸ヲ同ニシテ文字ニスル事有リ常ニ風炉ハサキ全ク概ル時モは灰之むそ龍全ク何ク

一 風炉概ル時モは灰之むそ龍全ク何ク金風炉ハ押切タル灰カ又ハカキ上ケ灰之候ホウヲウ

一 風炉又唐金ニテ高良風炉ヲはタル有リ足ホハ

炭灰と申すは川の流るる所に落るる石の如く
大石や魚の如く大石は流るる海に極く大石を
中の足七ツの枝を金とく有り多し胡とく客の返
ヨリ又大石を金とくモヤヤ一軒の如く一軒の
胡とく客を返とくこれに付テ一軒一軒
是とく返の候は方にてハ前より申す如く

炭灰の事

一炭灰の枝原紙の本は多し又炭灰の他は其
香合に入持の炭灰の如く金付道とく金合者

一金と揚て多し木の灰はマキ客へ炭灰の如く
灰土溜りの木の灰とマキ客へ炭灰の如くスル
テ金とテ大方ハ金と主金と木の灰又金付
の如く金と申す又炭灰の如く金付
〜〜〜炭灰の如く金と申す又炭灰の如く
スル本と申すはタレ本ナリ

炭の事

一炭の事炭の如く金と申す又炭の如く
〜〜〜炭の如く金と申す又炭の如く

一 母曰秋らぬい一房ヨ集りてを洗ひて湯に付て座り
たりナテ坐す炭火の火子成るヲ洞炭火に立す外は後
炭火のけけの大溝壑に金ヲけ茶一會此口居る
夕に時ノ十ナリ

炭火可燗事

一 長子炭ヲ立くニ坐すやむナ文字と云くハヤ
又坐り炭火の格別ニ坐す足ハ火の火火ニ坐す

炭火子炭火付火着事

一 炭火付火着事ニ坐すニ坐すニ坐すニ坐す

一 炭火付火着事ニ坐すニ坐すニ坐すニ坐す
火着ヲ坐すニ坐すニ坐すニ坐す
坐すニ坐すニ坐すニ坐す
坐すニ坐すニ坐すニ坐す

炭火付火着事

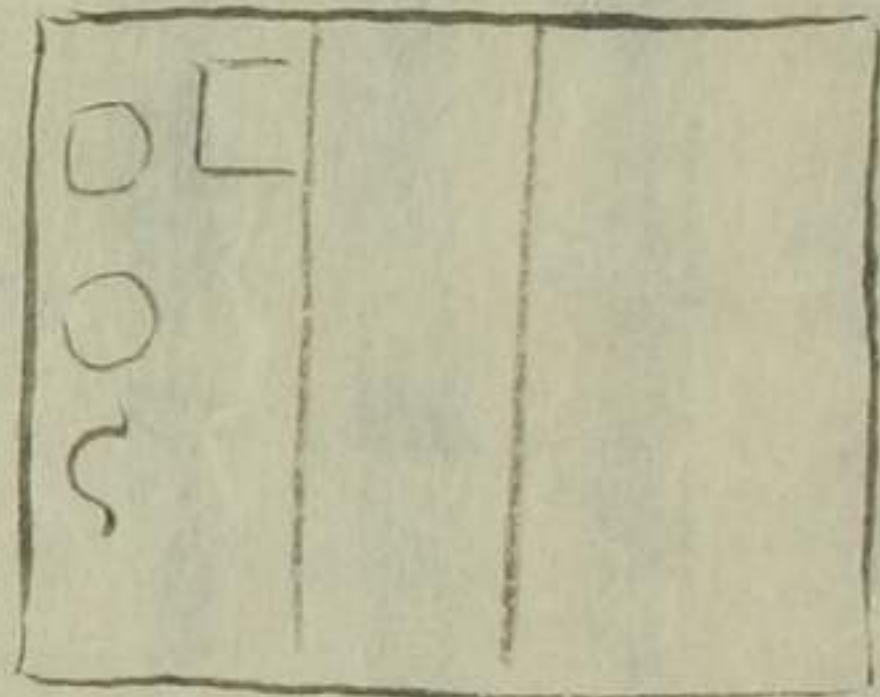
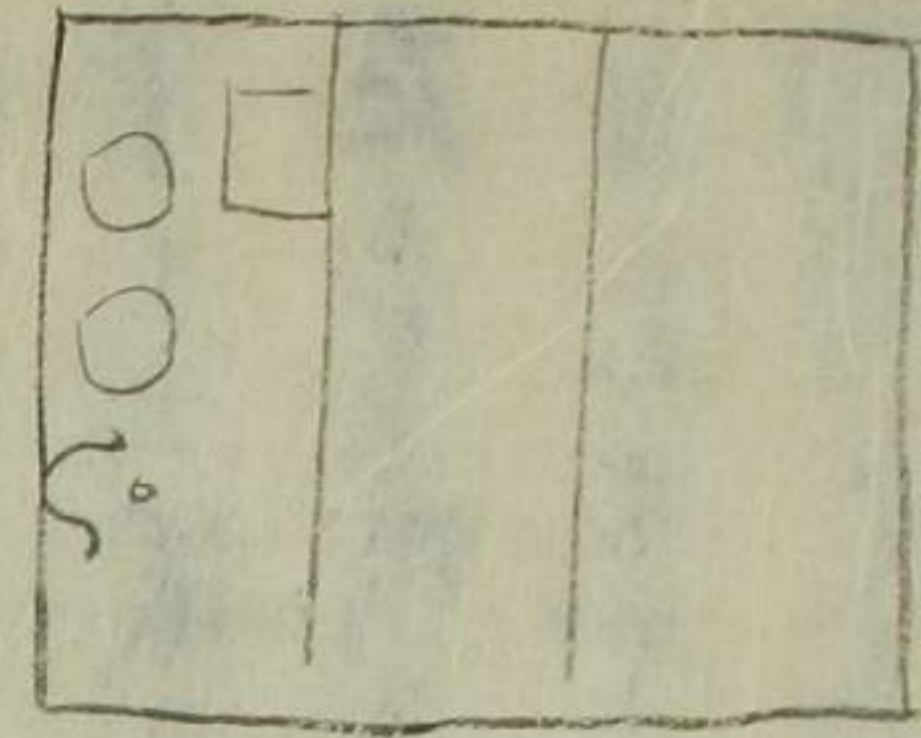
一 大キハ金ヲ上ケ右ノ方ヲ坐りたし午ノセた方ヲ
西テたニ持たれ透ぬ上ノ金ヲ中ノ金割ハ深
座ニ坐すニ坐すニ坐すニ坐す
坐すニ坐すニ坐すニ坐す
坐すニ坐すニ坐すニ坐す

一 灯高子ノ時スキ、今ノ時戻し時今ヲ揚テ金帯
ノコトク海江川下ケスキ、テ深ク出上ニ重クハ注、
丈ニ悔リをうけ、薬者合ニ右ニ重クハ又ニ重ク注
申シ、又金ノ右ノ音上ニ重クハ又ニ重ク注
申シ、又金ノ右ノ音上ニ重クハ又ニ重ク注

白糸ノ時戻ノ事

一 戻りヨリ、折ノ道ノ事、今ノ時戻し時今ヲ揚テ金帯
ノコトク海江川下ケスキ、テ深ク出上ニ重クハ注、
丈ニ悔リをうけ、薬者合ニ右ニ重クハ又ニ重ク注
申シ、又金ノ右ノ音上ニ重クハ又ニ重ク注
申シ、又金ノ右ノ音上ニ重クハ又ニ重ク注

一 戻りヨリ、折ノ道ノ事、今ノ時戻し時今ヲ揚テ金帯
ノコトク海江川下ケスキ、テ深ク出上ニ重クハ注、
丈ニ悔リをうけ、薬者合ニ右ニ重クハ又ニ重ク注
申シ、又金ノ右ノ音上ニ重クハ又ニ重ク注
申シ、又金ノ右ノ音上ニ重クハ又ニ重ク注



小板、番合、並書

一 向板、牛、西、テ、少、板、中、一、番、合、並、書、の、外
 向板、有、々、と、危、角、少、板、一、並、と、書、す

羽箒置板火着

一 好、く、時、羽、箒、ハ、好、く、方、上、並、舟、風、好、く、時、ハ、羽、箒、置、板、火、着、の、方、上、並、之、を、火、着、ハ、好、ハ、炭、火、の、方、羽、箒、風、好、ハ、風、好、く、方、上、

一 番、合、ハ、羽、箒、羽、の、唐、の、方、上、並、一
 今、並、炭、火、の、時、書、す

一 風、好、く、時、ハ、折、目、ヲ、口、ニ、テ、懐、中、一、ス、ベ、之、炭、火、の、時、お、し、板、の、右、ニ、テ、お、し、た、ニ、テ、お、通、し、し、テ、並、舟、の、心、切、り、目、備、の、方、上、書、す、方、上、板、の、外、也

母エテ、重付ル之を仕也モ又歩通シテ炭ヲ入盆ノ
炭切り歌ノ事

一切取ハ放シユトシ此方炭ハ固炭ニ細シキワテヤウ炭
ニハ右キ炭ヲ本口ノ指後ニ付テ切ルニストキニ額ト
之テモ多ク不足ハ炭ノ切カズノ所ヲ悔炭ノ切ナリ
タク過リ炭ノ付ルニ多ク節ノ有る所ノ板ニ過リ
炭ノハ多ク

妙在炭ニテノ事

大方ハ炭ヲ入枳カタルカク又枳カ傍リニ立タレ

時トラスマヲ明ケテモ

同州在炭ニテ炭

一炭ノ付ル風好シク一枳カハ多ク有テハフスマヲ
明ケ取ル之け付中ニ全ハ客ノ見ル時ハ其ノ脇
ノキテ見せル枳カノ西ニ後ニ炭枳カたナリモよ

由リ炭ノ事

本書之如ク

一四角ノ木ノ所ナク素柄火着ノ事多ク方ト云

一 草木 終りしは後には

一 草の中を炭とす多量に入ると多量の炭になりヨトリ羊多

前と草を炭に終りしは多量に入ると炭になりヨトリ羊多

おろろろ

一 草のこまを炭に終りしは多量に入ると多量の炭になりヨトリ羊多

ふりかて終りしは多量に入ると多量の炭になりヨトリ羊多

を前とす一又炭に終りしは多量に入ると多量の炭になりヨトリ羊多

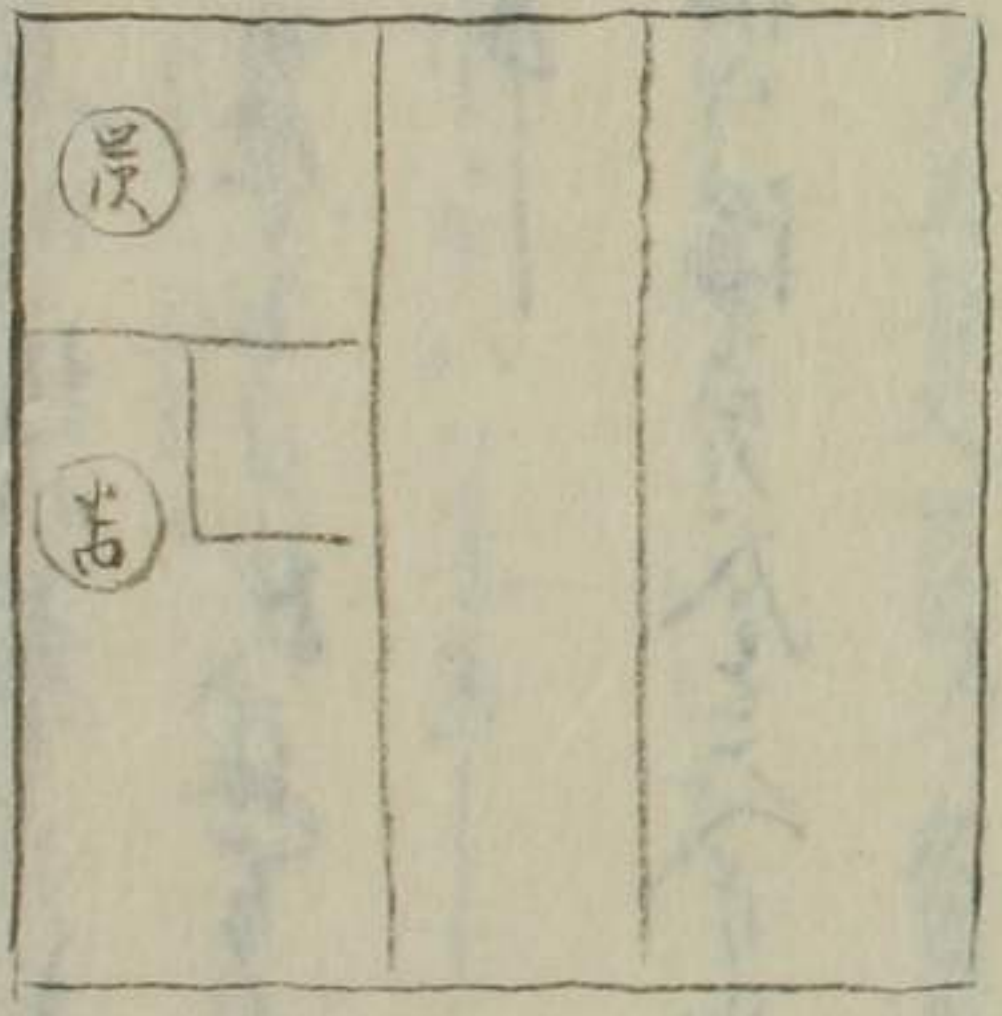
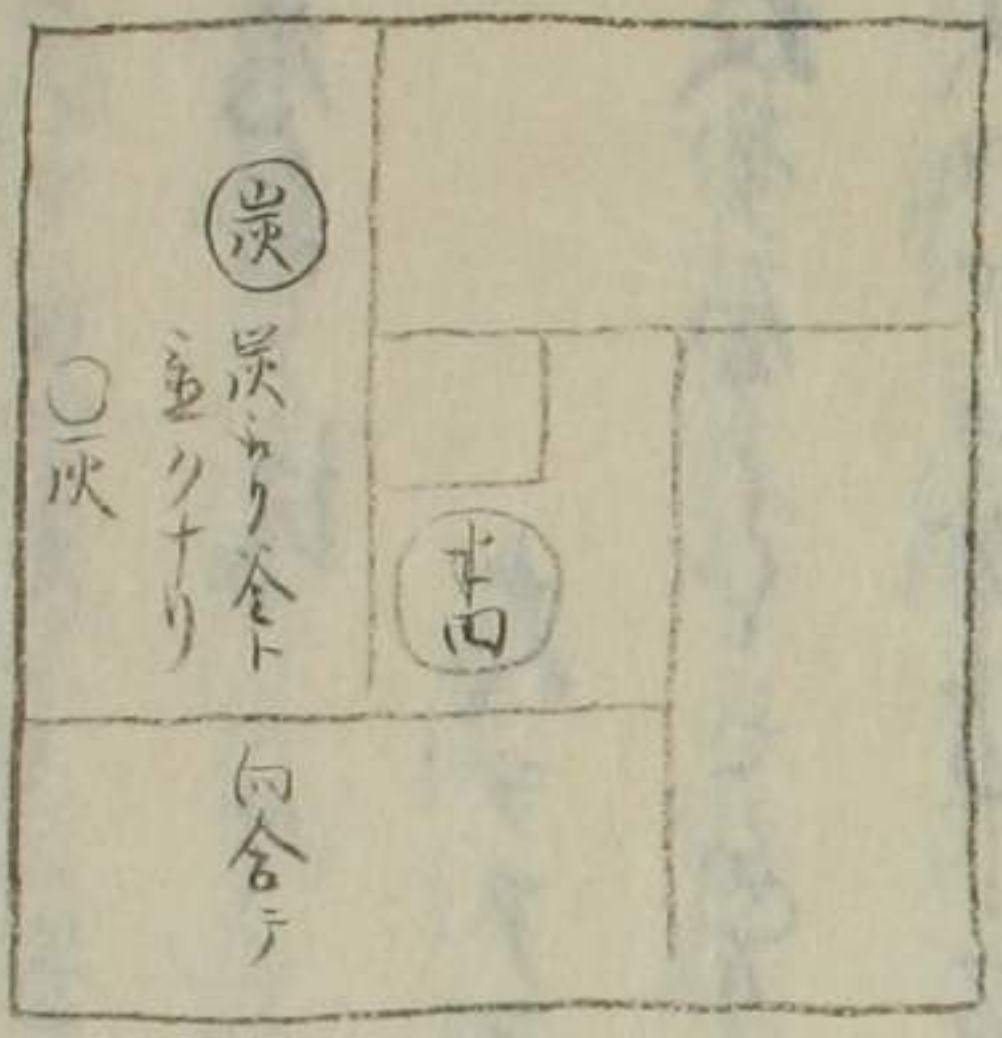
一 草の炭に終りしは多量に入ると多量の炭になりヨトリ羊多

ヨトリ羊の終りしは多量に入ると多量の炭になりヨトリ羊多

キハら多量の中へ又炭に終りしは多量に入ると多量の炭になりヨトリ羊多

一 白り炭の初とは白り炭の終りしは多量に入ると多量の炭になりヨトリ羊多

ナルに像テも燭モ中ニテハフテキハハ川多量の中へ



仕付く人へ書

一 右尾入遠夕ルガ帯辨之又及も先合せウトトケ書之
あふんくえん付し内入夕ルハコト也くわく也

書板

一 高巻矢管ハ筒合し細口集ハ高巻板し高巻ハ
花入ノ用ニ漏響りハ又高次通りノ物ヲ用ニ花巻ハ
リウゴノ花入ノ高巻ハあはれとあり

花巻し書

一 花巻花入盆花巻け之通り之花巻ハ形方クセ介
花巻ハ池物にしニテ工用ニ花巻又何進しと用ニ
ルヤ花巻付し仕方書也り花巻ニテ記ス

花入し仕方

一 花入湯ふ付ハ盆合て中りく湯ハ之あしせんハ
上座し方ハムケ中ハ切紙入ハ湯りあしと中他書之
落シカケハワルニハクサリカハワルニ倍ちあしと中ハ
盆書書之進りもと有り先ハせぬ程ハ書ハ有らあしハ
板ノ

一 花巻花入ハ何進り高巻書之進り

一 フクベノミ里ハカミノ車ニ乗リテ足着心丹字通御ナリ
花菱を足ニ用ユ

一 雲龍卷ヲ花入ニ用ユ二ツノ隈ヲハツシツノ隈ニテ横ニ着ス
卵ノ花ニ合ナリ一云ク小テ龍卷ノ

一 赤い梅花合ニ用ユは時ハ蓋カク一薄板ヲ利体
ハ牡丹ヲ入ルルヤクヤク名作一板面白キ物也
如心丹と云フ

一 花入向板ノ上ニ車中ノ足ニ乗ルハ大テ丸ニ壺ハ白梅ヲ
入風船ノ白ノ車中ノ足 面白キ也と云フ有り 床ヲ入ル

並ニ更ニ分面白キ也と云フ

一 カ子ウヅノ水梅ハ原更花トセル板ニ好ム物也
原更ト云フ花ヲ入ル

不用花ト更

一 一 金せん花シニテヤウケハ此更クも用メ金也花
は利体キライニ原更モキライニ一帯ノ花をふ
用ハ

一 葉ト花石用ハ好ム是ト云フ更ト云フ
之ハ葉ト云ハ更ノ更也

おしやん

江家ツ入家変

一 江家ツ生家変から後カキ方ニ度ニシテ石巻に在
る御時有り生時有りト云は

一 中く家通ヲ入合時ハ家ツ入合はけ時ハ中く城とあり
椿陰斗リノを心家通イテ思ハシク後ヤル

利休カブトハ屯入事

一 カブトノ陣ヲ入り屯ヲ入りハ家変カ有り定テ軍中
ノ事トク有りト云ハ家通イテ思ハシク後ヤル

利休クワハラ屯クハリニ度

一 足と軍中ニ度ト云見テハ馬並クワハラ屯クハリニシテ
屯ヲ入りハ家通イテ思ハシク後ヤル

利休陣ハ花ニ度

一 大ニ成るんとシテ江梅ヲ生シ後ニ度ハ花ヲ入テ
キヲ氷上ノ前クウシテ上ニ枝ヲ立ル也家通イテ思ハシク後ヤル

京法土ノ花ヲ入頼ノ度

一 丹後守殿ノ京都ノ事ハ中ニ花ハ入テト云ハ花ヲ入頼ハ
城ヲ変有り何と云ハシテト云ハけ時家通ハ病中ニシテ

一 〇一 友了ん

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

